

ダカール腸チフス治療体験記

1. はじめに

これは、セネガル首都ダカール在住の 31 歳男性が体験した、2022 年 4 月 10 日から 16 日までの腸チフスの治療記録である。この間私は Urgences et Solutions Médicales という民間の往診サービスを 2 度(11, 12 日)利用し、Clinique de la Madeleine という私立病院へ 4 泊 5 日(12 日-16 日)入院した。この体験記は、ダカールの医療情報を共有する目的で記される。医療費合計と医療機関情報は最後に記しているので、それだけでも参考にしてもらいたい。

2. ホームドクターを呼ぶ (4 月 11 日月曜日)

腸チフスはチフス菌保菌者の糞尿で汚染された飲食物を介して感染すると言われる細菌感染症である。初期症状は高熱であり、深刻化すると腸出血等を引き起こすと言われる、セネガルへの渡航への際はワクチン接種が推奨されている。

始まりの症状は、10 日(日)起床時に 38 度後半の発熱だった。翌日になっても症状は一向に回復しなかったため、病気休暇の旨を職場に伝え、昼まで解熱剤を服用し眠った。症状は高熱、震え、寒気、頭痛であった。昼前には 39.6 度まで熱が上がったため、医師による治療が必要であると悟り、13 時頃に Urgences et Solutions Médicales という民間医療機関へ、往診サービスの電話予約を行った。電話予約では名前、症状、住所を伝えた¹。

医者は電話から約 2 時間後、アシスタントを伴い 2 人で到着した。主治医はフランス語に加えて英語を話した。改めて高熱と頭痛の症状を伝えると、高熱の原因を特定するための問診と診察(おなかを押したり、首の動きを確認したり、下痢や嘔吐の症状がないか確認された)が行われ、解熱剤とビタミンの点滴を行った。処置後、解熱剤、ビタミン剤、マラリア薬²、抗生物質の内服薬が処方された。薬の購入は同居人に頼み、合わせて 8610fcfa(約 1722 円)分購入した。

この時点で原因は特定されず対症療法が行われた。あとは続いて行われる血液検査の結果と症状次第で今後の方針が決まるとのことだった。熱は点滴のおかげで 37 度程度まで下がっていた。カード支払いが不可だったので、現金で 45000fcfa(約 9 千円)の支払いを行い往診は終了した。

その後、血液分析機関 MEDICA の担当者が訪れ血液検査が行われた。採血は 30 分程度で終わり、17 時頃にすべての処置が終わった。支払いはカード不可で現金も無かったので、電子マネーアプリ WAVE³で 40000fcfa(約 8 千円)支払いを行った。血液検

¹ この時点では「出来るだけ早く到着する」と言われるのみで、到着予定時刻はわからなかった。

² マラリアは対応が遅れると死亡率が高まる上、発症時の血液検査で発見されない場合もあるため、セネガルで高熱の場合はどのような原因であってもまずはマラリア処方薬を数日間服用することになる。

³ 電話番号と身分証のみで送金・預金ができる、セネガルで非常に広く普及している電子マネーアプリ。

査の結果は当日 20 時頃に WhatsApp⁴より PDF で届いたが、原因は特定できなかった。

3. 入院へ（4月12日火曜日）

処方された薬を飲んでいたのにも関わらず、前日の夜から症状は悪化する一途だった。解熱剤の効果が1-2時間で切れるようになってしまっていた上、薬を飲むために必要な量の水を飲むと、吐き気を催し、少し下痢をするようになっていた。15 時頃には熱が 40.3 度に上昇していたので、薬での治療に限界を感じもう一度往診を呼んだ。

昨日と同じ医者とアシスタントが、電話予約から 1 時間半後くらいにやってきた。今回は、血液検査の結果を元に、解熱剤→ビタミン剤→抗生物質の点滴を順に行ったが、今度は解熱剤の点滴後から 30 分程度で熱が上がり始めてしまった。この時点で入院が必要と判断され、医者が搬送先の病院を手配してくれ、彼が乗ってきた救急車で Clinique de la Madeleine という私立病院へと搬送された。今回の費用は、救急車搬送費用を含めて 75000fcfa(1 万 5 千円)であった。

救急外来に到着すると、Urgences et Solutions の医者が、搬送先の医者に病状、検査結果、処置内容を伝えてくれた。その間私は、海外旅行保険の内容確認を行った。残念ながら携帯していた東京海上の保険証は日本語で書かれていたので、私は無保険者と同様の扱いとなり、結局デポジットとして 100 万 fcfa(約 20 万円)をカードで支払った。

支払い後処置室に連れていかれ、往診サービスで受けたものと同様の問診、血液検査のための採血、コロナ検査、点滴が行われた。その後、入院用の病室が用意出来るまで、1 時間程度処置室の救急用ベッドで横になっていた。

用意された病室はシャワー・トイレ・冷蔵庫・同伴者のためのソファ・ベッド付きの個室であり、冷蔵庫の上には 1.5 リットルのペットボトルが用意されていた。セネガルの大きい病院の入り口付近には、大抵路上の物売りがおり、水、果物、朝食や夕食が売られているので、買い物は同伴者が要れば困ることはない。

4. 入院生活（4月13日-16日）

入院期間中は、6 時間ごとに解熱剤、抗生物質、ブドウ糖のルーティンで点滴を続けた。入院 3 日目の 14 日には、日中のからだのだるさもなくなり、最高体温は 38 度後半へと徐々に落ち着き、シャワーを浴びることが出来るまで体力が回復した。

入院時の血液検査では原因が特定できなかったが、経過を見るにおそらく細菌感染だろうということだった。入院 3 日目に検便検査を追加で行い、医師から翌日か翌々日の退院の見通しが立っていると聞かされた。4 日目の 15 日も同様の体調であり、医師から 16 日退院の許可がでた。16 日の朝には熱はすっかり下がっており、無事退院することが出来た。

入院生活は快適であった。看護師の愛想もよく、毎朝 10 時に部屋の掃除と備品の交

⁴ 日本で言う LINE のようなメッセージアプリ。セネガルではこのアプリを通して個人間、グループ内のメッセージ（特にボイスメッセージ）のやり取りが行われる。

換に訪れてくれ、病院食は朝 9 時、昼 13 時、夜 19 時ころに蝶ネクタイをした紳士風の男性によって配られた。食事はかなり豪華で、かなりのボリュームに加え味も非常に美味しかった。昼と夜は魚か肉が交互に出た。聞くと、病院にはレストランが併設されているという。

担当医師は朝 10-11 時頃と夕方 17-18 頃に様子を確認しに来た。医師は忙しいため、自分から質問をしなければ症状や治療法の説明をしてくれなかったが、質問すると丁寧に答えてくれた。担当医師はフランス語と英語を話した。

5. 退院とその後の処置

退院日の朝 11 時頃、会計係の部屋へ行き支払い手続きを行った。請求額は 713359fcfa(約 14 万 2671 円)であった。既に入院時に 20 万分のデポジットを支払っていたので、差額を現金(fcfa)で返還してもらった。また、担当医に保険会社のフォーマットに記入してもらうようお願いした。この時に、腸チフスだったことが確定した。同時に 2534fcfa(約 507 円)分の抗生物質を処方された。

6. 終わりに

以上の治療でかかった費用と医療機関情報を以下にまとめる。

● 合計費用

	品目	費用
1	Urgences et Solutions médicales 往診費(11 日、12 日分)	2 万 4000 円
2	MEDICA 血液診断費	8000 円
3	Clinique de la Madeleine 入院治療費 ⁵	14 万 2671 円
4	薬代	2229 円
	合計	17 万 6900 円

● 医療機関情報

(1) Urgences et Solutions médicales

ADRESSE : 4319 Allees Seydou Nourou Tall, Dakar, Point E

TEL : +221 33 869 98 97

HP : <https://www.urgsolutionsmed.sn/>

24 時間受付で、往診、緊急外来、救急車搬送サービスを行っている民間医療機関。

(2) Clinique de la Madeleine

ADRESSE : 18 Av des Jambaars BP 3500 DAKAR, Plateau

TEL : +221 33 889 94 70

HP : <https://www.cliniquedelamadeleine.com/>

内科、婦人科、神経外科等々がある民間医療機関。

⁵ 請求書内訳によると入院費用は治療費除き一泊 60000fcfa(約 1 万 2000 円)であった。